

第3回町田市観光まちづくり基本方針策定検討委員会 会議録（案）

開催日時 2016年11月1日（火） 14時00分～16時00分

場 所 市庁舎2階 会議室2-3

出席者 出席委員： 西田司 委員長、高橋清人 副委員長、秋山綾 委員
中村浩之 委員、カイル・カード 委員、佐藤勲 委員、
鈴木悟 委員
欠席委員： 本多委員
傍聴者： 1名
庁内検討委員等（傍聴）： 産業観光課1名、地区まちづくり課1名
事務局： 経済観光部長
産業観光課観光まちづくり担当課長
産業観光課統括係長、産業観光課3名

< 1. 議事 >

（1）第2回検討委員会会議録の確認

前回の会議録について内容の確認を行い、市のホームページ上で公開することについて了承された。

（2）町田市観光まちづくり基本方針（素案）の検討

①観光資源集積エリアにおける関連計画と観光客データ

事務局から説明

委員：観光まちづくり基本方針を進めていくにあたって必要となるデータをもう一度洗い出し、データ収集のための調査を行う必要がある。

委員：中心市街地の買い物も観光の一部として考えているのはありがたい。ファミリー層がもっと来訪しやすくしてほしい。

市民アンケートの中にイベントに携わりたいとの意見があったが、主催者側として参加したいのか、イベントに行ってみたいのかどちらなのか。

事務局：イベントに行ってみたいという人の割合が多いと思うが、まちをきれいにする活動等は主体的に参加している人が多く、観光まちづくりの担い手として期待できるものと考えている。

委員長：芹ヶ谷公園のデータは集めていないのか。

事務局：今後、実態調査を進めていく必要があると考えている。

委員長：芹ヶ谷公園のターゲットは薬師池公園と同じターゲットなのか、それとも中心市街地のターゲットに近いのか。

事務局：町田市中心市街地まちづくり計画では、芹ヶ谷公園までを対象としている。芹ヶ谷公園

を芸術の杜として位置付け、催しを定期的に行い、街中から芹ヶ谷公園まで回遊してもらえるような計画を考えている。

委員：芹ヶ谷公園の利用者は、全体的に年配の方が多い印象。アクセスをよくするなど満足度を上げていく必要がある。今、不足している部分を補えば市民が魅力を感じて、訪れたいのではないかと。

委員長：中心市街地に欲しいものとして子どもが楽しめる施設が挙げられているが、具体的にはどんな場所なのか。

事務局：最近、芹ヶ谷公園にできた冒険遊び場やシバヒロといったところが、子どもが楽しめる施設だと考えている。シバヒロの子ども向けイベントには多くの家族連れが訪れている。

委員長：子ども連れのお母さんは、お金をかけずに一日居られる場所を求めている。子どもと楽しめる施設としてどのようなものが求められているのか、リサーチする必要がある。

②町田市観光まちづくり基本方針（素案）について

事務局から説明

<1 方針策定の必要性>

委員：町田市でなぜ観光に取り組むのかが最初に明記してあってわかりやすい。観光に取り組む目的が地域活性化だけになっているが、中心市街地のことを考慮すると経済活性化も入れておく必要があるのではないかと。

<2 町田市の「観光」を取り巻く現状>

委員：「ガイドツアー」について注意書きなどで定義付けすべき。

委員：「地域活動に参加している市民が少ない」とあるが、情報は市民に伝わっているのか。情報が届いていないと地域活動に参加したい市民がいても参加できない。

委員：「地域活動」と一括りにするのは問題がある。地域活動の中には参加率が高いものもあるので、表現方法を工夫したほうが良い。

事務局：地域活動は必ずしも観光に係わるものだけではなく、自治会、福祉、環境など様々なものがある。活動に参加する意識はあって、依頼されれば参加する人もいる。

委員：「まちへの愛着を持つ市民の割合が近隣市と比較して低い」とは、何と比べて言っているのか。

事務局：周辺市の市民と比較して10%程度低かった。町田は約60%で、横浜では約70%であった。少なくとも他市と同程度もしくはそれを超える数字を目指したい。

委員：町田はアクセスが良く、買い物にも便利で市民が不満を感じているわけではない。何か一つ市民が喜ぶような対策をしたら愛着が高まるのではないかと。

委員長：各委員からいただいた意見を踏まえ、伝え方や表現方法を工夫してほしい。

< 3 町田市の「観光」の目指すべき方向性 >

委員：資料に記載されている（3つの項目の）方向性の順番が違うのではないか。まず、「市民が自分の住むまちの魅力を知り、住んで良かったと思う」があり、次に「来訪者に感動を与え、感謝される」、最後に「来訪者自らが情報を発信する」というのが自然な流れではないか。

委員：町田市の「観光まちづくり」の将来像を実現するための取り組みも、「観光の魅力づくり」、「担い手と態勢（体制）づくり」、「情報発信」の順で並べた方が分かりやすい。

委員：市民が住んでよしと思うことと、来訪者に喜んでもらうことと、どちらを第一に考えて基本方針を作るのかで方向性の順番が変わる。これまでの検討を踏まえると、住んでよしの方が先で良いと思う。

委員：情報発信が先ではなく地域が魅力を理解することが先である。

委員：「市民」ではなく「地域住民」とあえて使っているが、意味があるのか。

事務局：「市民」は市内で活動している企業や団体も含め「市民」としている。「地域住民」はあるエリアに住んでいる人と定義している。

< 4 町田市の「観光まちづくり」の将来像 >

委員長：4 町田市の観光まちづくりの将来像について他に良い言葉があるか。

委員：「体験」が伝わりにくい。中心市街地での買い物や食事も「観光」の範疇としているので余計に違和感がある。代わる言葉として「感動」や「市民」はどうか。

体験よりも感動の方が良いと思う。例えばフットパスに感動する、何かを作って感動する、何かを食べて感動する、などがある。

そして、何のために観光かと考えた時、市民の相互交流を目指していきたいことから「市民交流都市まちだ」とするのはどうか。市民交流によって魅力が伝わり外からも人が訪れることになる。

委員長：「体験交流都市」を外したらどうか。「住んでよし、感じてよし、訪れてよし」はどうか。

事務局：体験を通じて感動する。もてなす側も褒められて感動する。来訪者も市民も感動を共有するという意味で「感動共有」というのも候補として考えている。

委員長：「3 町田市の「観光」の目指すべき方向性」と「5 町田市の「観光まちづくり」の将来像を実現するために」とを考慮して、将来像を再度検討願いたい。

< 5 町田市の「観光まちづくり」の将来像を実現するため >

委員長：取り組みによって想定される施策で付け加えた方が良い部分はあるか。

委員：「取り組み」＝「視点」が伝わりにくい。「取り組み」のみで良いと思う。「取り組み」の3つ目にある「町田ならではの観光の魅力づくり」は「地域の魅力づくり」とすべき。

「取り組み」の順番は、まず「地域の魅力づくり」、「担い手と態勢（体制）づくり」があり、最終的に「情報発信」だろう。

「体験プログラムやガイドツアーの充実」は「担い手と態勢（体制）づくり」の方と思

われる。また、「基礎データの収集」が先にあり、それに基づいて何をやるのか、何が地域の魅力なのかといった、「地域資源の洗い出し等」を行うことになる。「情報発信」の最終的な到達点は、市民自ら地域の魅力を情報発信することである。

< 6 方針の期間内における将来像の達成目標 >

委員：視点1では、まず「地域素材の魅力を認識できている」状態を目指し、「観光を楽しんだ人自らがその体験を情報発信している」を中期目標に置き、最終的には「市内外の方々に魅力が認識され交流が拡大している」状態としたほうが良い。

次に、視点2では、短期目標を「もてなす体制ができている」とし、中期目標は「各世代の参加が進んでいる」とし、長期目標はこのとおりで良いと思う。

最後に、視点3では、「資源」を「素材」に置き換え、短期目標は「今ある素材の魅力の洗い出し、掘り起しがなされている」中期目標として「その素材を来訪者が体験し、磨き上げがなされている」とした方がよい。長期目標は「住民が地域の魅力を認識し、愛着や誇りに繋がる観光資源になっている」とした方がよい。

委員：この目標はどうやって達成されていると考えるかが非常に難しい、もう一度考えたい。

委員：P D C Aサイクルを市民が見て分かるようにする必要がある。来訪者調査などのデータ収集に基づき考えていければ良い。

< 7 「観光まちづくり」を進めることによって期待される副次的効果 >

委員：なぜ副次的効果としたのか。本編では単に「効果」として、項目ももっと列記されており、そのままが良いのではないか。

委員：こちらも項目5と同様に順番を並び替えた方がよい。

委員：資源を掘り起して、態勢（体制）を作り、結果的に交流することで活性化し観光まちづくりができる。具体的に何かをするということが課題になってくる。

委員長：今回の委員会での意見を踏まえ、市民意見募集をする。

事務局：市民意見募集は12月16日から1月16日まで行う。